

会 議 記 録

高松市附属機関等の会議の公開及び委員の公募に関する指針の規定により、次のとおり会議記録を公開します。

会 議 名	平成29年度第1回高松市介護保険制度運営協議会
開 催 日 時	平成29年6月22日(木) 午後3時40分～午後4時10分
開 催 場 所	高松市役所 13階大会議室
議 題	(1) 第2層協議体(地域福祉ネットワーク会議)経過と課題について (2) その他
公開の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開
上 記 理 由	
出席委員	22人
	山下 隆資(会長)、石川 満枝、上田 利枝、植松 勉、兼間 達郎、喜田清美、木村 昭代、辻 章伯、徳増 育男、中村 照江、野上 典子、古川有希子、松原 文子、松村 雅彦、植野 英一、片山 仁子、工藤 猛志、高嶋 伸子、高橋 英雄、大原 久美子、多田羅 治、横倉 益弘
傍 聴 者	1人
担 当 課 及 連 絡 先	介護保険課 839-2326 地域包括支援センター 839-2811 長寿福祉課 地域包括ケア推進室 839-2345

協議経過及び協議結果

・ 議事進行

会議の運営に関し、高松市の「会議の公開等に関する方針」に則って公開することについて、承認を得る。

－ 以 後 審 議 －

議題 ・ **第2層協議体(地域福祉ネットワーク会議)経過と課題について**

資料1に基づき、事務局と高松市社会福祉協議会から説明した。

(議長) ただ今の説明について、何か御質問ございませんか。

(A 委員) 話の腰を折るようで悪いのですが、もう国は次の方針として、地域包括ケアを飛び越えて、地域共生社会を打ち出しているわけです。今説明していただいたけれども、こういう課題を伝えるのではなく、生活支援コーディネーターとして、このようにしたいのだがどうかというような提案をしていただきたい。

先程の会議でも申しあげましたが、これを乗り越えてやっと持続社会が作れるわけです。最終的に地域コミュニティ、ボランティアなんです。だからもう少し地域の理解をもらわないととか、行政にお願いしたい部分があるとか、そういうことを市社協が言い出すようでは困ります。

(B 委員) 小規模多機能型居宅介護事業者として、このサービスBができたということに、

非常に期待をしました。要介護状態で、ごみ出しが出来ず、一人困ってらっしゃる方がいたので、このサービスBが、いわゆる新しい総合事業の対象の方だけでなく、要介護状態で通常の介護サービスを使っている方でも、こういった少しの手助けを利用できれば地域で生活できるのではないかと期待しました。できたら、こういったサービスBは、要支援の方だけでなく要介護の方にも対象を広げていってもらえれば助かるかなと思います。制度の制約等あると思いますが、ぜひできたらお願いしたいと思います。

(C 委員) この協議体の会に出席するに当たり、市社協内で十分話をしてきました。1層目の我々が何をするか、何ができるかというところを話し合う場であると思います。先程、生活支援コーディネーターから3つの依頼がありました。1つ目は、地域ごとに自分事としてできるようなバックアップを、1層目の皆さんがそれぞれのお立場で持ち帰っていただき、何かできることを考えてくださいというもの。2つ目は、サービスBの対象者は、要支援1・2、事業対象者なので、その人数は少ないですね。そうではなく、要介護1～5だとか自立の方を巻き込んだ地域のニーズに合ったサービスをしていく、そういうところをもっと理解が得られるようにしてほしい、そういった要望がありました。3つ目は、コミュニティです。ここはなかなか難しいところなのですが、やっぱりコミュニティを中心とした入口ですので、そこについてもこの1層の協議体でどうしていったらいいのかということを短い時間ですけど、一緒に考えて頂けたらと思います。

(D 委員) ニーズがない所に行く心労というのは想像に難くありません。本当に御苦労さまでございます。先程、コミュニティ協議会との連携がなかなかという話がありました。すごく大事なことと思うのですが、今どういうコミュニケーションを取られているのでしょうか。例えばメーリングリストを作り、お互いの活動が見えるようになっているのか、それとも何かの会の時じゃないとお互いが何をしているのか分からないのか。もしそうだとしたらそこを改善しないといけないと思うのですが、いかがでしょうか。

(事務局) コミュニティ協議会が開催している会議や取組に生活支援コーディネーターも参加しております。そこで協働して何らかの形を作っていこうとする一部分が今回の取組の一つとなっています。コミュニティ協議会の中で、色々な意見が出ており、そこであまくいっているところはいいのですが、うまくいっていないところは、本当に入口から入れないような状況というのが実際の現状としてはあると思います。入っていているところについても、なかなか課題がたくさんございます。そういった中で、やはりコミュニティ協議会としてこういった取組が必要だという意見や、コミュニティの担当課にもこういった場に出ただき、一緒に協議できるような取組に今後なっていけば、もっと進みやすくなるのではないかと考えております。

(D 委員) 顔が見える連携がすごく大事だと思います。同じ空間で同じ課題を一緒に考えるということがすごく大事だと思います。例えば、お互いの協働で何かをするようなコミュニケーションをとれるような会、高松市が開催していたワールドカフェなど、お互いの課題を地区ごとに分かれて皆さんが話をし、そういうのがあると

か、そういう御苦勞をされているのかということを経共有し、コミュニケーションを取るとか、あとSNSの時代でもありますので、一緒にこういうことをしました、今こういう方法で解決していますというようなことをお互いが「見える化」していけないといけないのではないのでしょうか。お互い知恵を出し合って連携がとれるような体制をもうちょっと考えていただけたらいかがかなとちょっと感じました。

(A 委員) 44のコミュニティには、それぞれの抱えている課題があるわけです。行政も自治会の問題等で悩んでいるということを経、以前から申しあげています。先程の会議でも申しあげたように、生活支援コーディネーターが地域に入っていく前に、そういう問題を知った上で話をしていかないと。それには、まず、私は、地域にボランティアや地域コーディネーター等の味方を作る必要があると思っています。

議題 (2) その他

(議長) 以上で、本日の協議事項が全て終わりました。

それでは、これをもちまして、平成29年度第1回高松市介護保険制度運営協議会(協議体)を終了させていただきます。